

青山学院初等部の教育内容

1. 初等部教育の特色

① サーバント・リーダーの育成

サーバント・リーダーシップという言葉は、企業のリーダーシップの類型として使われた言葉です。しかし、この言葉は実はキリスト教のリーダーシップ精神を表す言葉で、トップダウン型のリーダーではなくボトムアップ型のリーダー像を表しています。つまり、トップに立ち権力を振るうリーダーではなく、縁の下の力持ちとしての役割を持ったリーダー像。これはまさに「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」（マルコ 10：45）と語り、弟子たちの足を洗うイエス・キリスト自身のリーダーシップと重なります。「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆のしもべになりなさい」（マタイ 20：26～27）というイエスの教えからもそのことが伺えます。

青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現する人はサーバント・リーダーの役割を果たしていると言えます。立場や年齢と関係なく、誰でも「地の塩」として周りの人たちに貢献し、サーバント（仕える者）として役割を果たすことができます。また、「世の光」としての生き方は他の人を導く輝きをもつでしょう。これこそが、サーバント・リーダーの生き方です。

初等部で大切にしている「5つのおやくそく」—親切にします、正直にします、礼儀正しくします、よく考えてします、自分のことは自分でします—の実現に向けて努力をする人も、サーバント・リーダーへの道をあゆんでいると言えるでしょう。

② 5つのおやくそく

本校では、「親切にします」「正直にします」「礼儀正しくします」「よく考えてします」「自分のことは自分でします」という、5つの生活指針「5つのおやくそく」を大切にしています。1946年、前身の緑岡小学校が校名を変えて、青山学院初等部としての歩みが始まった年に、この「5つのおやくそく」もできました。

それから長い年月受け継がれてきたことは、この指針が教育的な本質を伴っていることを示しています。「します」という表現になっているのは、学校からの押しつけではなく、自ら行動の指針としてほしいという願いが込められているためです。

しんせつにします
しょうじきにします
れいぎただしくします
よくかんがえてします
じぶんのことはじぶんでします



③ 宿泊行事の充実（→6. 宿泊行事）

本校では、宿泊行事について3つの考え方を大切にしています。

- 1 教育は出会いである
- 2 世界は教場（学びの場）である
- 3 先生だけがリーダー（導き手）ではない

「学校だけで学びを完結させずに、広い世界に積極的に出かけ、出会う人々全てから学ぶ」、これが初等部行事の基本です。この考え方に基づいて系統的に数多くの宿泊行事、体験プログラムを行っています。

活動の質を高めるために行事検討委員会を設け、前年度の活動の良いところを踏襲し、改善点を検討した上で、その年の児童にあったプログラムを実施しています。



④ 食育

生活の一部である食事も大切な教育の場と考えています。身体だけではなく、心を育てる食事となることを目指しています。

1年生のはじめに、簡単な軽食で給食の準備の仕方や食べ方、片付け、ルールなどを学んでから給食をスタートします。その後、教室給食や二学年合同で食事をいただく食堂給食を通して、さまざまな場所での食事の準備の仕方や片付けの方法、マナーについて学びを深めていきます。

また、6週間に一度、学年ごとに頂く木曜ランチオンでは、食堂が「青山レストラン」へと変わります。その一学年のためだけに手をかけて作られた食事をいただきながら、テーブルマナーや会食の楽しみ方、お客様のおもてなしについて学んでいきます。



⑤ ICT教育

学習の理解を深め、話し合い活動を活発にするために、日常的にICTを活用しています。

低学年では学習内容をわかりやすく伝えるツールとして、電子黒板や書画カメラを教員が活用しています。学年が上がるにつれ、自ら調べ、まとめ、発表するためのツールとして子どもたち自身が活用するようになります。教科学習だけでなく、当日の予定や帰りの会での連絡事項を表示するなど、学級活動でも活用しています。

近年は、タブレットPCの活用も進めています。子どもたちがグループでの意見をまとめたり発表したりするためのツールとして活用しています。

青山学院初等部では、2012年度より学内にICT教育戦略委員会を設置し、授業での活用やICT環境整備に関する検討を始めました。当委員会は、本校の教員だけでなく、青山学院大学の教授やICT関連の企業がメンバーとして属している、産学協働のプロジェクトです。本校でのICT活用の様子をフィードバックして、製品の改良に繋がったり、新製品の検証等を行ったりしています。その結果、より活用しやすいICT環境の整備を行うことができます。



⑥ 英語教育

初等部、中等部、高等部の12年間で連携し、第1期（初等部1年生～4年生）、第2期（5年生～中等部2年生）、第3期（中等部3年生～高等部3年生）からなる4-4-4制一貫英語教育を進めています。小学校から高校までの一貫したカリキュラムに基づいて、オリジナル教科書 SEED BOOK を使用して学習しています。

また、課外活動として、希望者向けに週に3～4回「チャットルーム」を開催しています。チャットルームでは、青山学院大学に所属している留学生たちと英語を使ってゲームをしたり、簡単な会話をしたりと、楽しみながら英語に触れています。毎年100人を超える子どもたちがチャットルームを利用し、国際交流を楽しんでいます。

児童の日記から

私は、英語が苦手です。でも、チャットルームだとゲームで楽しみながらできます。だからいつも楽しんでできるし、おかげでだんだん英語もできるようになりました。今回も面白いゲームをしました。英語の単語の始めの文字だけが書いてあってその後ろに単語を書く、というものです。英語はこれからよく使うと思うので、上手になれるようがんばります。（5年生児童）

今日は、グローバルデーでした。一日中英語を使って過ごします。私が一番楽しかったのは、三時間目と四時間目です。どうしてかというと、今日学校に来てくださった外国の方とたくさんお話ができたからです。みなさんとても明るかったので、会話をしていて楽しかったです。お昼ご飯もいっしょに食べました。その方々は、日本語が何も話せなかったの、「今、算数の授業で何を学んでいますか」と英語で聞かれたとき、「比例」と英語で言えなくて、とても苦労しました。でも、今日の体験、とても楽しかったです。これからも外国の方とたくさんお話をしていきたいと思います。（6年生児童）

また、オーストラリア・クイーンズランド州ヌーサにあるグッドシェパード校などで、夏休みに2週間のホームステイプログラムを実施しています。（→5. 特別活動と課外活動 ③短期留学）

児童の日記から

（前略）僕のホストファミリーは、3人兄弟でアウトドア好きの家族だった。週末には川へ行行ってモーターボートで楽しんだり、山登りをしたり、毎日がわくわくの日々だった。そして何より楽しかったのは、バディとバディのお兄ちゃんが習っているオーストラリアンフットボールのチームの練習に交ぜてもらったことだ。初めて会うチームメイトが優しくしてくれて、思い切り走って汗を流した。

平日の学校の登校はバディのお兄ちゃんとスクールバスで45分だ。この長い間に、たくさん英語の力を深めることができた。学校の休み時間は、鬼ごっこや、ハンドボールというオーストラリアの手のひらくらいのボールを使うスポーツをクラスのみんなど楽しんだ。ルールもくわしく教えてもらい、うれしかった。

（中略）ホストファミリー、学校の友だちのことは、絶対に忘れない。明るくたくさん話しかけてくださったホストファザー、僕のことをいつも気にくださったホストマザー、日本の遊びに夢中になってくれたバディのお兄ちゃん、一緒にたくさん遊んでくれたバディ、明るくて僕を笑顔にしてくれたバディの弟、みんなのことは忘れない。お別れの日はとてもつらかった。正直、まだオーストラリアにいたかった。でも初等部に戻ったら下級生にこの体験を伝えてあげたい。（6年生児童）

⑦ パートナー制度

本校では、1年生が入学すると、2年生のお兄さんお姉さん、6年生のお兄さんお姉さんとそれぞれペアを組みます。このペアを組む相手のことを「パートナー」と呼んでいます。2年生は身近なお兄さんお姉さんです。いっしょに学校探検をしたり休み時間に遊んだりする中で、1年生は遊び方や学校生活のおやくそくを学び、少しずつ学校に慣れていきます。

また、6年生のお兄さんお姉さんも、5年前に自分たちがパートナーのお兄さんお姉さんにしてもらったことを、今度は自分のパートナーにしてあげます。



2年生パートナーとのスタンプラリー



6年生パートナーとの対面

児童の日記から

20ぶんやすみ、6ねんせいのきょうしつでやすまきくんにあいにいきました。だっこしてもらったからうれしかったです。

ほんとうのおにいちゃんみたいです。(1年生児童)

今日あしたの学校たんけんのれんしゅうをしました。あしたは1年生に「わからなかったらいてね。」とさいしょにいおうとおもっています。ろうかはしづかにするよとおしえてあげます。まだ先だけどすてきな2年生になってほしいから、ぼくもいろんなことをおしえてあげたいです。(2年生児童)

⑧ 日記を通した心の交流

本校では、1年生でひらがなを学習した後、日記を書き始めます。児童が毎日日記を書き、保護者と担任がそれを読んでコメントを書く、という取り組みを6年間続けます。これにより、児童の書く力が育つだけでなく、児童と保護者と担任の三者で心の交流をすることで信頼関係が深まっていきます。

また、クラスや学年で担任が選んだ日記を紹介することで、児童同士は友達の気持ちや考えを知ったり、自分もがんばろうという気持ちになったりします。よりよい学校生活や学習の取り組みへの動機づけとなります。

6年間で何十冊にもなる日記帳は、卒業する児童の宝物になっています。

⑨ 日常評価・成長の記録・三者面談

本校には通知表がありません。

「日常評価」に重点を置き、「成長の記録」を用いた「三者面談」をおこなっています。

日常評価

本校では、子どもたちの成長のために、「学校任せ」「家庭任せ」ではなく、学校と家庭とが「車の両輪」となって子どもたちの成長に関わっていくことを大切にしています。そのため、学校で取り組んだ学習プリントや連絡ノートは、毎日家庭で確認し保護者がサインをする、ということをお願いしています。また、テストの点数だけでなく、学習プリントや授業ノート、学校での生活や授業の取り組みの姿勢を通して、子どもたちの日々の取り組みを日常的に評価し、家庭にお知らせしています。

成長の記録

毎学期、学期終わりが近づくと、児童と家庭でその学期の歩みを振り返り、「成長の記録」に自分のその学期の成長に関して記入をします。記入するのは下記の3項目です。

- A できるようになったこと・努力を続けたこと（10こ以上）
- B まだできていないこと・努力の足りないこと（5つまで）
- C これからできるようにしたい課題（3つ）

日常評価を大切にし、児童自身が成長を実感できるよう、A項目を一番多く挙げることにしています。B項目は、自分にとって今学期うまく取り組めなかったりさらに良い取り組みに変えていける項目、C項目は、次の学期に毎日意識して取り組む課題、児童にとっては次の成長へのステップになります。数を絞ることで、課題を明確にするねらいがあります。また、前学期の「成長の記録」に書いたC項目の取り組みの様子も振り返り、記入することで達成度を確認しています。

この書類は三者面談で使用します。

成長の記録（4年3学期）																																																											
<p>児童番号 _____ 4年 _____ 組 _____ 番 _____ 氏名 _____</p> <p>4年生2学期の「成長の記録」を読み返し、その後の成長を振り返ります。空欄の「C」を書きましょう。また、右のわくに添って取り組みを自己評価しましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">1</td><td style="width: 55%;"></td><td style="width: 40%;"></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>A 4年2学期の三者面談後から今まではできるようになったこと、努力してきたこと、自分から進んで取り組んだことを書いて書きましょう。下のれいを参考に、はげしく取り組みましょう。 <small>じまじまの受け方、家庭学習の取り組み、家庭での時間の使い方、ていぶ物や学校のイベントなどの取り組み、新しい仲間とのかわり、優や得意のしごとの取り組み、ラジオ体操や行事への取り組み、自分で決めたことの取り組み など</small></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td></tr> </table>	1			2			3			1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		<p>B まだできていないと思われること、これから取り組むとよいと思うことを、ぐ体できに書きましょう。Aのれいのように、はげしく考えましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td></tr> </table> <p>C 「B」の中で、力をのばすために取り組みたい課題を決め、どのように取り組んでいくのか、ぐたいてきに書きま。す。「がんばる」はちがいます）取り組みたいじゅんに3つ書きま。す。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td></tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>面談をした感想</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td>保護者記入欄</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td>担任から</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	1		2		3		4		5		1		2		3		面談をした感想					保護者記入欄					担任から		
1																																																											
2																																																											
3																																																											
1																																																											
2																																																											
3																																																											
4																																																											
5																																																											
6																																																											
7																																																											
8																																																											
9																																																											
10																																																											
1																																																											
2																																																											
3																																																											
4																																																											
5																																																											
1																																																											
2																																																											
3																																																											
面談をした感想																																																											
保護者記入欄																																																											
担任から																																																											

三者面談

学期末に「三者面談」をおこなっています。子ども・保護者・担任の三者で、「成長の記録」を用いて話し合いを進めます。子どもの学習や生活の現状を確認し、成長したことと、今後取り組みたい課題、及びその具体的な方法を確認していきます。面談後は、面談で確認した取り組むべき課題（成長の記録C項目）を意識した生活が始まります。

このように、目標の達成を目指して日々取り組み、定期的に振り返るルーティンを作っています。「先生がこうなさいと言ったからやる」では、子どもの心は成長しません。自身の良かったところ、良い取り組みができなかったところを客観的に評価し、できなかったところはその改善策まで考えるこの取り組みによって、子どもたちはいわゆるP D C A（Plan→Do→Check→Act）サイクルを体験的に学んでいきます。「三者面談」も「成長の記録」も、学校と家庭が両輪となって子どもを支え、子どもと共に前へ進んでいくことを目指して取られている方法です。いわゆる「通知表」が学期の終わりに評価を伝達するだけのものになりやすいのに対して、これらの方法は、日々の子どもの成長を共に確認し合い、次の目標への挑戦を促す取り組みです。

